

第 44 回 中国地区英語教育学会 研究発表大会

日 時： 平成 24 年 6 月 22 日（土）13:00～16:30

会 場： 山口大学教育学部
〒753-8513 山口県山口市吉田 1677-1

大会実行委員長：高橋俊章

大会事務局： 〒753-8513 山口県山口市吉田 1677-1
山口大学 教育学部 猫田和明 研究室内
Phone: 083-933-5417 Fax: 083-933-5417
E-mail: casele@yamaguchi-u.ac.jp

12:00～ 受付開始（教育学部正面玄関）

(11:00～12:30 理事のみ： 理事会（教育学部 C 棟 3F 共同演習室）

13:00～13:30 総 会（教育学部 B 棟 2 階 22 番義室）

13:40～16:30 自由研究発表（教育学部 B 棟の 2 階と 4 階）

17:00～19:00 懇親会（山口大生協学生食堂「ポーノ」 会費：2 千円）

【自由研究発表】 13:40～16:30

(紙幅の都合でこの表にはメインタイトルだけを表示しています。発表者氏名と所属およびサブタイトルを含んだタイトルについては、次ページ以降を御覧ください)

	第1室 2階 22番教室	第2室 2階 23番教室	第3室 2階 24番教室	第4室 4階 41番教室	第5室 4階 42番教室	第6室 4階 43番教室
13:40 ～ 14:10	The effect of teacher's autonomy-supportive behavior on students' intrinsic motivation	upとdownを含む句動詞の認知言語学的考察	法助動詞の使用と中学校英語教科書の関係	中四国地区の私立大学の入試における文法構文の出題の頻出度と形式	小中連携を視野に入れた小学校外国語活動における英語の絵本の活用方法	文学を用いた英語教育
14:15 ～ 14:45	学校英語教育における目的論の考察	中学生の英作文に日本語訳が及ぼす影響	良質な例文使用による英文法指導の実証的研究	中学校英語教科書における文法に焦点を当てたタスクの分析	小学校英語活動を指導するための一基準	新規学習項目の内在化機能に関する継続的な英文音読演習の効果について
14:50 ～ 15:20	ヨーロッパのCLIL(内容言語統合型学習)に関する一考察	テキスト理解後の書く活動における生徒作成英文の質的分析	処理指導(VanPatten, 2002)の効果について	SVO + to V構文の何を重視すべきか	短期間で効果が望める超分節的な発音指導の開発・実践	考える音読・視覚化する音読の取り組み
15:25 ～ 15:55	外国語学習における動機づけの階層モデルの検証と活用	短期集中形式で行ったLarge Grammar活動(1)	日本語を母語とする成人英語学習者の主語習得の問題	和訳がなくなれないかもしれないもう一つの理由	英語発音に対する英語母語話者、非英語母語話者の主観的評価の比較	テキストの難易度の相違による読解ストラテジーの研究
16:00 ～ 16:30	英語教育における不安と失敗回避と成功接近との関係について			日本人英語学習者の多肢選択型問題解答能力と文法の明示的説明能力との関係性についての一考察		認知行為としてのシャドーイングとリピーティングの機能の比較

第1室 (2階 22番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	The effect of teacher's autonomy-supportive behavior on students' intrinsic motivation 鄧 婧 (広島大学大学院)	According to self-determination theory, students taught by autonomy-supportive teachers are likely to experience more positive educational outcomes than those taught by controlling teachers. However, in China, the formal settings of English learning in high school are considered to be teacher-controlled, and students showed less intrinsic desire in such environments. The aim of this study is to find out the effect that autonomy-supportive teacher has on students' intrinsic motivation. It is hoped that the result can be helpful and meaningful to classroom teachers.
14:15 ～ 14:45	学校英語教育における目的論の考察 福場 奈美 (広島修道大学大学院)	近年、学校における英語教育は動き始めている。小学校での外国語活動や、高等学校での英語使用なども始まったが、学校の中で学習者は何を目的として、何を学ぶべきなのかをより具体的に示す必要がある。本論文では、文部科学省提言や学習指導要領などから、学校英語教育での目的について考察する。
14:50 ～ 15:20	ヨーロッパの CLIL (内容言語統合型学習) に関する一考察 二五 義博 (海上保安大学校)	本発表では、ヨーロッパの各国で最近普及している CLIL の基本的概念、指導法や実践例を踏まえつつ、日本における英語の授業でも教科間連携を重視した形での、「内容」と「言語」の同時習得を目指す“二刀流”はいかにして実現可能であるかを探る。
15:25 ～ 15:55	外国語学習における動機づけの階層モデルの検証と活用 田中博晃 (広島国際大学)	本研究では動機づけを高める研究を行う上で有用なモデルである「外国語学習における動機づけの階層モデル」の検証とそれをういた研究例の紹介を行う。
16:00 ～ 16:30	英語教育における不安と失敗回避と成功接近との関係について 藤居 真路 (広島県立神辺高等学校) 深澤 清治 (広島大学)	本研究の目的は、高校1年生 112名(男子 52名、女子 60名)を調査協力者として、不安と失敗回避に関する質問紙調査を行ない、英語学習における不安と失敗回避・成功接近との関係を探究することである。

第2室 (2階 23番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	up と down を含む句動詞の認知言語学的考察: British National Corpus を利用して 加美田 祐也 (広島大学大学院)	up と down を含む句動詞の意味論的構造を認知言語学の立場から明らかにし、British National Corpus での分析結果を報告する。中・高等学校教科書での使用を考察するためのベースラインデータとしたい。
14:15 ～ 14:45	中学生の英作文に日本語訳が及ぼす影響 北村 真理子 (広島大学大学院)	本発表の目的は、異なる日本語訳が中学生の英作文に与える影響を明らかにすることである。そこで、擬音語・慣用表現・主語の欠落・主語選択の困難の4観点から、意識と逐語訳の和文英訳課題 10問を中学生に与え、分析した結果を報告する。
14:50 ～ 15:20	テキスト理解後の書く活動における生徒作成英文の質的分析 浅井 智雄 (広島県立廿日市西高等学校)	「読むこと」と「書くこと」を統合させた授業展開の最終段階で、教科書参照条件と非参照条件下で生徒が作成した英文を比較分析した結果、主として、非参照条件下で、語彙使用にクリエイティブな側面が見出された。この結果は、テキスト理解後の書く活動の意義を示唆していると思われる。

15:25 ～ 15:55	短期集中形式で行った Large Grammar 活動 (1) —アウトプットされた文のデータ分析を中心に— 足立 和美 (鳥取大学)	2012年7月4日から同月24日までの間、計8回にわたり、中学校3年生10名の協力を得て、アウトプット能力養成を狙いとした Large Grammar 活動を行った。この発表では、今回の短期集中形式で行った試行で得られた文のデータの分析結果を示す。
---------------------	---	--

第3室 (2階 24番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	法助動詞の使用と中学校英語教科書 の関係 高野 櫻子 (広島大学大学院)	数ある文法の中でも、英語学習者が習得に困難を覚えやすいと考えられる項目として法助動詞があげられる。本研究では、先行研究で明らかとなっている法助動詞使用の偏りの一因が、教材の中でも学習者の基本的なインプット材料となり教師が指導の基盤とする教科書にあるかどうかを検討した。
14:15 ～ 14:45	良質な例文使用による英文法指導の 実証的研究～分詞構文の場合～ 中住 幸治 (広島大学大学院・ 山口県立岩国高等学校)	本研究の目的は、(1)より質の良い例文を使った英文法指導の方が対象文法項目の理解・深化が進むか、(2)より質の良い例文の方が学習者の印象に残るか、等を今回は分詞構文を対象として検証することにある。
14:50 ～ 15:20	処理指導 (VanPatten, 2002) の効 果について—残された課題の解明— 吉川 正美 (香川県教育センター)	教育のパラダイムシフトにより、学習者の特性に応じた効果的な指導が一層求められている。本研究は、PI (Processing Instruction) が学習者に与えた影響を総合的に考察することを目的とする。br
15:25 ～ 15:55	日本語を母語とする成人英語学習者 の主語習得の問題—認知文法の視点 から 戸出 朋子 (広島修道大学)	話題—解説構造の色濃い日本語を母語とする英語学習者の主語—述語構造の習得困難性が指摘されている。大学生を対象に、英語的な事態の捉え方をイメージさせる口頭産出練習の効果を文法性判断テストにより検証した。

第4室 (4階 41番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	中国四国地区の私立大学の入試におけ る文法構文の出題の頻出度と形式 吉川 良太 (広島大学大学院)	中国四国地区の私立大学の入試で出題される文法構文の頻出度と、その出題形態を調査した。頻出度に関しては、全国での大学入試の結果と同様、初期段階で学習する構文が多く、その出題形式は、大学間、同大学内でも年度ごとに、大きく異なっていた。
14:15 ～ 14:45	中学校英語教科書における文法に焦 点を当てたタスクの分析—タスク後 に行う文法指導の在り方に関する一 考察— 山口 健人 (広島大学大学院)	平成20年改訂の学習指導要領により、文法は、言語活動と効果的に関連付けて指導することとなった。本研究は、中学校新旧教科書内のエクササイズとタスクの量的分析を通して、タスク実施後の文法指導の在り方を提案する。
14:50 ～ 15:20	SVO + to V 構文の何を重視すべき か —コーパス研究に基づく指導法 の考案— 井上 聡 (環太平洋大学)	「SVO to V」は複雑かつ多様な機能を有する、難度の高い構文である。本研究では、母語話者の用法、学習者の使用状況、教科書の記述内容の観点から分析を行い、学習者の理解を促進するための指導法や教材開発について提言を行う。
15:25 ～ 15:55	和訳がなくなならないかもしれないも う一つの理由—模擬試験再考 中沢 敏浩 (広島県立海田高等学校)	進学校に通う高校生の多くは、受験生全体の中の自分の位置を知るために模擬試験を受ける。模試の長文読解問題の中には、伝統的な下線和訳問題が含まれている。本発表では、模試の影響力の大きさと和訳の持つ重みについて考察する。

16:00 ～ 16:30	日本人英語学習者の多肢選択型問題 解答能力と文法の明示的説明能力と の関係性についての一考察～大学生 を事例にして～ 兼重 昇 (広島大学) 大牛 英則 (比治山大学)	本研究では日本人英語学習者(大学生)を対象にして、 文法性判断能力を測る手段として、多肢選択型問題と 記述による説明を求める問題を課し、両者の関係につ いて分析をする。得られた調査結果を元に記述による 説明を求める問題の有効性を論ずる。
---------------------	---	--

第5室 (4階 42番教室)

13:40 ～ 14:10	小中連携を視野に入れた小学校外国 語活動における英語の絵本の活用方 法—絵本 The Very Hungry Caterpillar を教材として— 又野 陽子 (山口市立平川中学校)	昨年の本研究発表会において発表した英語の絵本の 活用方法に関する研究を継続し、今回は物語体の絵本 を教材とした実践を報告する。昨年取り上げた視点に 加え、教室英語の使用や多様なインタラクションなど の点からも小中の連続性について考察を行う。
14:15 ～ 14:45	小学校英語活動を指導するための一 基準—J-SHINE(小学校英語指導者 認定協議会)作成シラバス 倉増 泰弘 (梅光学院大学) 島 幸子 (梅光学院大学)	NPO団体J-SHINEは小学校への外国語教育導入をふ まえて、指導者の指導力基準を整備した。梅光学院大 学では、この基準に基づくシラバスを小学校教員課程 に採用し、結果として学生の動機づけになっている。 本発表では、J-SHINE の指導力基準を参考に、今後 の小学校教員養成の在り方を考察したい。
14:50 ～ 15:20	短期間で効果が望める超分節的な発 音指導の開発・実践 西野 友一朗 (島根大学大学院) 猫田 英伸 (島根大学)	英語初学者に対して短期間で簡便に英語発音の質を 高めることができる指導方法とは何であろうか。本研 究を通して、超分節的な発音指導と分節的な発音指導 の最良の組み合わせを探ることで、学習者が効果を実 感しやすい指導方法を提示する。
15:25 ～ 15:55	英語発音に対する英語母語話者、非 英語母語話者の主観的評価の比較 猫田 英伸 (島根大学) 西野 友一朗 (島根大学大学院)	音読タスクにおける学習者(中学校2年生)の英語発 音に対して、英語指導者5名(英語母語話者3名、非 英語母語話者2名)が下した主観的評価の結果を用い て探索的にデータマイニングを行う。

第6室 (4階 43番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	文学を用いた英語教育—ペアワーク による読解の変容に着目して— 今村有希 (広島大学大学院) 小野 章 (広島大学)	本研究の目的は、文学テキストの言語表現に関する発 問に、学習者が他者との話し合いを通してその読みを どう変容させるかを調査することである。本発表では 大学生を対象に行った実験における成果を中心に発 表する。
14:15 ～ 14:45	新規学習項目の内化機能に関する 継続的な英文音読演習の効果につ いて 佐藤あずさ (安田女子大学大学院)	本研究では、音読の効果とされる「新規学習項目の内 在化機能」に焦点を当て、2種類のテストを用いた約 4ヶ月間の継続的な音読演習を行い、得られたデー タやアンケートから、英文音読の効果を検証する。

14:50 ～ 15:20	考える音読・視覚化する音読の取組み 浅野 享三 (南山大学短期大学部)	和訳による確認に頼り過ぎることなく読み取り内容を視覚化させて理解の深化を促す取り組みについて。音読は既習内容の復習だけでなく、聴き手に伝える内容を理解する手段となりうる。国語「考える音読」の取組みも紹介する。
15:25 ～ 15:55	テキストの難易度の相違による読解戦略の研究 瀧 由紀子 (松山大学)	テキストの難易度は、学習者の読解戦略に影響を及ぼす重要な要因である。テキストの難易度を変えた読解テスト（難・易）を日本人大学生に実施し、習熟度の相違による読解戦略の使用を調査した。
16:00 ～ 16:30	認知行為としてのシャドーイングとリピーティングの機能の比較 竹野 純一郎 (中国短期大学)	リスニング力を高めると考えられているシャドーイング練習とリピーティング練習の効果を比較する。参加者の英語運用能力とシャドーイング力、リピーティング力を事前・事後で測定した。その結果を報告する。

お知らせとお願い

研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

- ・発表時間は20分、質疑応答は10分とします。
- ・計時係を各室に配置し、20分で1鈴、30分終了で2鈴鳴らします。
- ・司会者は依頼しておりませんので、質疑応答は発表者で行って下さい。
- ・発表資料については、50部程度ご用意いただき、発表の直前に配布してください。

昼食は、山口大学生協学生食堂（教育学部ウラ）が営業しています（10:00～14:00）。

32番教室（3階）を休憩室としています。飲食不可ですが、休憩にご利用ください。

自動販売機の位置は案内図をご覧ください。

構内は禁煙です。ご協力をお願い致します。

山口大学吉田キャンパスへのアクセス

JR 新山口駅—19分—湯田温泉駅—駅より徒歩約25分
(湯田温泉駅からタクシーで5分)

JR 新山口駅からタクシーご利用の場合は、吉田キャンパスまで約25分かかります。

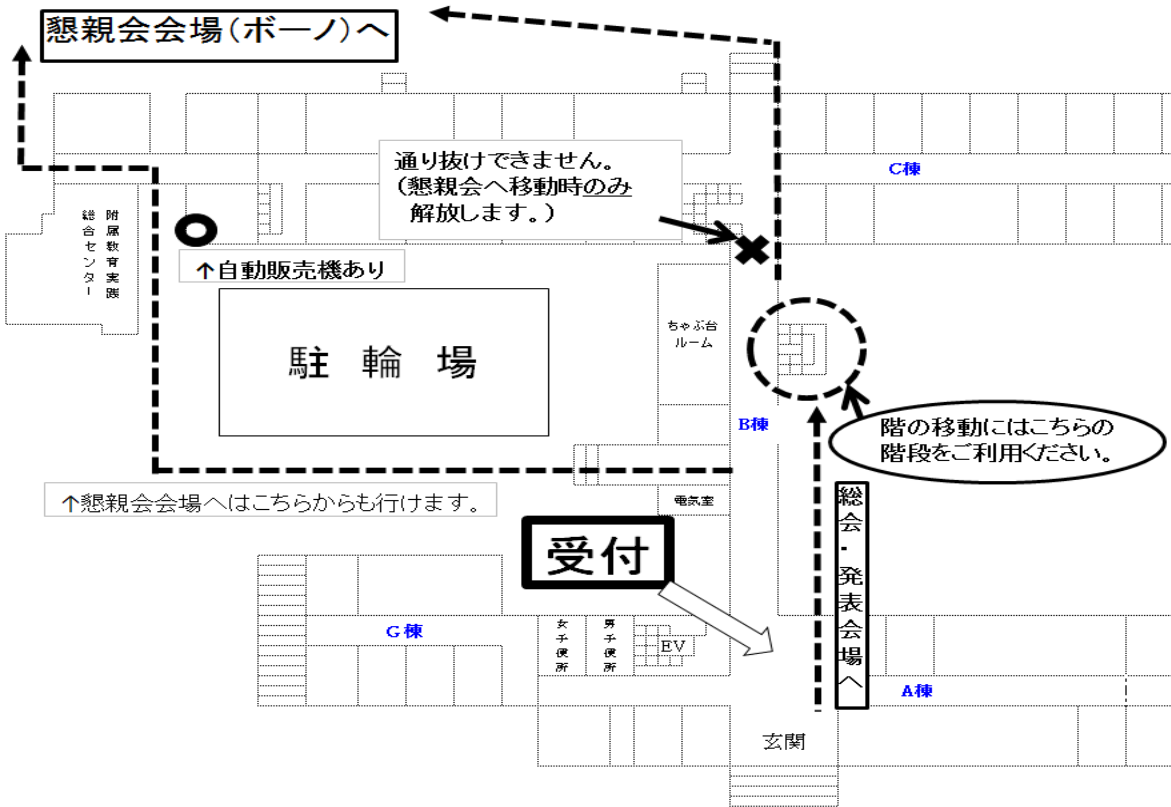
防府東I.C.から車で30分、小郡I.C.から車で15分

湯田温泉駅および山口大学周辺のタクシー会社

大隅タクシー 0120-31-0860

第一交通 083-922-1368

教育学部 (1 階)



教育学部 (2 階)

教育学部 (4 階)

この他、32番教室(3階)を休憩室としています。
 飲食不可ですが、休憩にご利用ください。

